

千葉県生物多様性センター 年報7

平成26年度（2014年4月～2015年3月）



千葉県生物多様性センター
Chiba Biodiversity Center

表紙の写真：生命のにぎわい調査団平成26年度写真コンテストの最優秀賞

「しつこいアブ（アオバズク）」 撮影：和田 敦子

アオバズクは森林性の小型フクロウです。千葉県では最重要保護生物に選定されており、著しく減少しています。撮影自体が難しいアオバズクの、一瞬の表情を巧みに捉えた作品です。

裏表紙の写真：生命のにぎわい調査団平成26年度写真コンテストの優秀賞

「紅葉とカワセミ」 撮影：戸崎 安司

カワセミは県内全域の水辺で通年見られます。碧く輝く美しい姿は被写体としても人気があります。この作品では、紅葉に映える翡翠の色彩が美しく表現されています。

はじめに

平成26年度における生物多様性関係の動きとして、国においては生物多様性条約の世界目標である愛知目標の達成に向けた取組の一つとして、「生態系被害防止外来種リスト」及び「外来種被害防止行動計画」が策定されました。これらは、国だけでなく、地方自治体、民間団体、企業、研究者、国民等、様々な立場における外来生物対策に係る行動指針を示したものです。

本県においては、平成22年3月に策定した絶滅危惧種シャープゲンゴロウモドキ及びヒメコマツの回復計画について、これまでに行われてきた生息地保全、外来種駆除、系統保存等の成果を踏まえた改訂を行いました。

また、ミヤコタナゴは野生個体の本県と栃木県にのみ生息する絶滅危惧種ですが、平成26年は同種が「種の保存法」により国内希少野生動植物種に指定されてから20年、文化財保護法により天然記念物に指定されてから40年に当たります。そこで、これらを記念して、今後の保護のあり方を議論するため、ミヤコタナゴの生息地がある御宿町が中心となり、本県と環境省の3者が主催して、ミヤコタナゴ保全シンポジウムを開催しました。

以上のように、生物多様性の取組も時間の経過とともに少しずつではありますが、着実に前進しています。ただ、こうした活動は、県などの行政機関が単独で行えるものではなく、県民、市民活動団体、企業、教育・研究機関等との幅広い連携が必要です。今後とも、多くの関係者と連携しながら、生物多様性の主流化を目指して取組を進めてまいります。

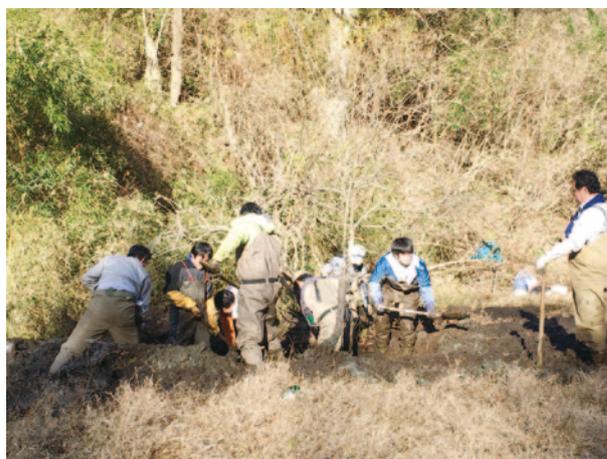
平成28年3月

千葉県環境生活部自然保護課長 伊藤 亮一

生物多様性センターの様々な活動



ミヤコタナゴの生息状況調査



シャープゲンゴロウモドキ
生息地での環境整備



生物多様性に関する市町村職員研修会
カミツキガメの取扱い講習



千葉県総合教育センターとの共催
「授業に役立つ生物多様性研修」



ビオトープ実地講座の開催



生命のにぎわい調査団現地研修会
秋の泉自然公園で開催

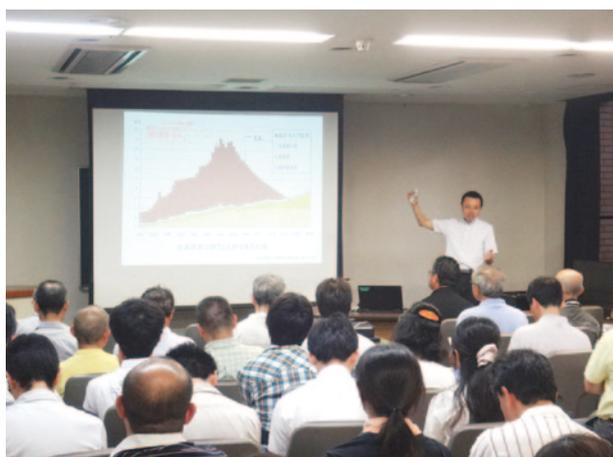
生物多様性センターの様々な活動



「エコメッセ 2014 in ちば」に出展



「富里市リサイクルフェア」に出展



企業と生物多様性セミナーを開催



生命のにぎわい調査フォーラム
写真コンテスト



ミヤコタナゴ保全シンポジウム
御宿町で開催



いすみ市 自然と共生する里づくり
シンポジウムでの講演

千葉県生物多様性センター 年報7 平成26年度

もくじ

はじめに	i
生物多様性センターの様々な活動	ii
もくじ	iv
I 生物多様性センターの概要	
組織・分掌等	2
センターの機能	3
平成26年度活動カレンダー	4
II 平成26年度主要事業のまとめ	
絶滅危惧種の保護にむけて	6
絶滅の危険性の評価	9
外来生物の脅威から生態系を守る	10
野生鳥獣類と人との共存をめざして	12
生物多様性情報の収集・管理・提供	13
県民参加型の生物モニタリング調査	14
イベントによる情報発信	16
ウェブサイトによる情報発信	17
刊行物の発行	18
生物多様性サテライトの設置	19
ビオトープの推進	20
大学との連携	21
企業との連携	22
さまざまな連携活動等	23
里山里海の生物多様性保全に関わる事業への参加と協力	24
III 平成26年度他機関への支援活動・研究業績等のまとめ	
他機関への支援活動・研究業績等	26

I

生物多様性センターの概要

組織・分掌等

生物多様性センターの概要

1 設置の目的

生物多様性センターは、平成 20 年 3 月 26 日に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図ることを目的に、平成 20 年 4 月 1 日に設置されました。

2 設置場所

生物多様性センターは、千葉県立中央博物館の中に設置されており、中央博物館と連携をしながら業務を行っています。

住所：〒 260-8682

千葉県中央区青葉町 955-2（千葉県立中央博物館内）

電話：043-265-3601

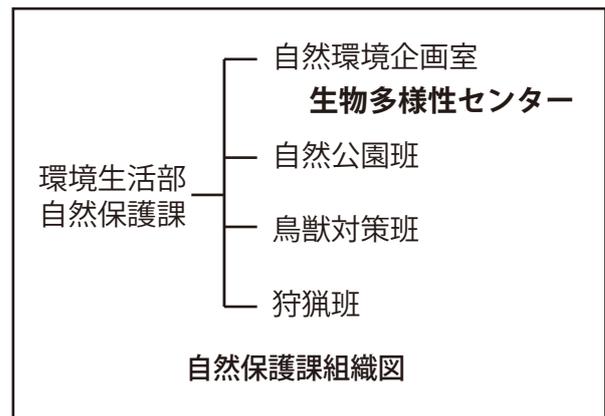
FAX：043-265-3615

e-mail : bdc@mz.pref.chiba.lg.jp

3 組織

生物多様性センターは、右図のとおり千葉県環境生活部自然保護課自然環境企画室に属し、下記の分掌にあたっています。

平成 27 年 3 月現在の生物多様性センターの職員は 9 名です。



4 主な分掌

生物多様性センターの平成 26 年度の主な分掌は下記のとおりです。

- ・生物多様性ちば県戦略の推進に関すること。
- ・生物多様性に係る基礎情報の充実・提供に関すること。
- ・生物多様性に係る地域等の取組支援に関すること。
- ・生物多様性に係る環境学習の推進に関すること。
- ・希少野生動植物の保護に関すること。
- ・外来生物（アカゲザル、アライグマ、キョンを除く）の対策に関すること。
- ・三番瀬等の自然環境調査（助言等）に関すること。
- ・生物多様性についての情報収集、管理、提供に関すること（シンクタンク機能）。
- ・生物多様性についての教育普及に関すること。
- ・生物多様性の保全・再生・利用のための現場指導に関すること。

センターの機能

生物多様性センターの概要

5 機能

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の推進に必要な、下記の機能を担っています。

○生物多様性に関する情報の収集・管理、提供・公開

- ・生物多様性に関する各種情報を収集し、提供します。
- ・千葉県に保有する生物多様性に関する既存情報を整備し、地理情報システム上で一括管理します。
- ・今後新たに得られた情報についても効率的に収集するシステムを構築し、順次整備していきます。
- ・地理情報システム上でデータベース化された情報は、生物多様性の効果的な保全に活かされます。
- ・これらの情報を様々な形式で一般の方から研究者まで広く提供します。

○生物多様性に関する調査研究

生物多様性に関する調査研究を推進し、かつ、モニタリング体制を整備します。そのため、野生動物の生息・生育状況とその経年変化を把握し、地球温暖化等の気候変動や人間活動が生物多様性に与える影響を探り、その対策を研究します。

○シンクタンク機能

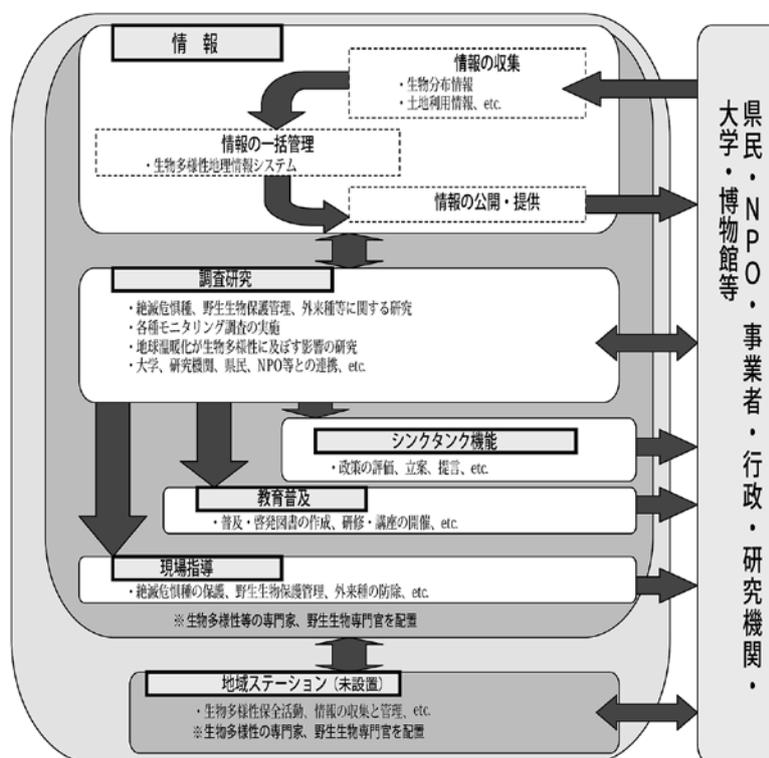
科学的な根拠に基づき、施策の評価、立案、提言を行います。

○生物多様性に関する教育普及

「生物多様性」及び「生物多様性ちば県戦略」の普及・啓発を図るため、各種図書の作成をはじめ、ニュースレターの発行、研修会・講座の開催等を行います。

○生物多様性に関する現場指導

野生動物の保護管理、生態系の保全・再生、生物多様性を一体的にとらえた地球温暖化対策の推進等、現場に即した指導・助言を行います。



平成26年度活動カレンダー

平成26年
(2014年)

- 5月
 - ・千葉県レッドデータブック追録第4号発行 (5/1)
 - ・生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会開催 於：東京情報大学ステーションキャンパス (5/28)
 - ・ニュースレター No.38 発行 (5/30)
 - ・生命 (いのち) のにぎわい調査団現地研修会開催 於：いちほら市民の森 (5/31)
- 6月
 - ・第17回船橋市環境フェア出展 於：船橋市中央公民館 (6/7)
 - ・いんざい環境フェスタ出展 於：イオンモール千葉ニュータウン (6/14)
 - ・第3回袖ヶ浦市環境フェスタ出展 於：袖ヶ浦市市民会館 (6/22)
 - ・市川市環境フェア出展 於：県立現代産業科学館 (6/28)
 - ・ちばし環境フェスティバル出展 於：千葉市文化センターアートホール (6/30)
- 7月
 - ・ビオトープ実地講座 於：市川市立市川自然博物館及び市川市動植物園自然観察園 (7/30)
 - ・ニュースレター No.39 発行 (7/31)
- 8月
 - ・平成26年度授業に役立つ生物多様性研修開催 於：千葉県総合教育センター (8/20)
 - ・生物多様性に関する市町村研修会開催 於：千葉県立中央博物館 (8/26)
- 9月
 - ・エコメッセ2014 in ちば出展 於：幕張メッセ国際会議場 (9/23)
- 10月
 - ・自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) 取組発表 於：アルファあなぶきホール (香川県) (10/23～24)
 - ・第12回印旛沼流域環境・体験フェア出展 於：佐倉ふるさと広場向かい (10/25)
 - ・ニュースレター No.40 発行 (10/31)
- 11月
 - ・第1回自然誌フェスタ千葉出展 於：千葉県立中央博物館 (11/3)
 - ・長南フェスティバル出展 於：長南町役場 (11/3)
 - ・ミヤコタナゴ保全シンポジウム開催 於：御宿町公民館 (11/8)
 - ・連携大学の研究成果発表会開催 於：東京大学柏キャンパス (11/9)
 - ・第13回企業と生物多様性セミナー開催 於：東京情報大学ステーションキャンパス (11/12)
 - ・リサイクルフェア出展 於：富里中央公園 (11/16)
 - ・生命 (いのち) のにぎわい調査団現地研修会開催 於：泉自然公園 (11/24)

平成27年
(2015年)

- 1月
 - ・生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会開催 於：東京情報大学ステーションキャンパス (1/22)
 - ・ヒメコマツ観察会開催 於：千葉県立清和県民の森とその周辺 (1/23)
 - ・ニュースレター No.41 発行 (1/30)
- 2月
 - ・第14回企業と生物多様性セミナー開催 於：東京情報大学ステーションキャンパス (2/2)
- 3月
 - ・「生命 (いのち) のにぎわい調査フォーラム」「調査団写真コンテスト」 (3/7)
 - ・生物多様性サテライト開設 (株)フジクラ佐倉事業所 (3/18)
 - ・研究報告第9号発行 (3/31)
 - ・ニュースレター No.42 発行 (3/31)

II

平成 26 年度主要事業のまとめ

絶滅危惧種の保護にむけて

絶滅危惧種対策事業

1 シャープゲンゴロウモドキ・ヒメコマツ保護回復事業

県内の絶滅危惧種の中でも、特に生息・生育状況が悪化し、積極的な保護がなければ絶滅する可能性が極めて高い種として、シャープゲンゴロウモドキとヒメコマツ(ゴヨウマツ)が挙げられます。平成20年度から地元自治体、関係NPO、学識経験者、水族館等で構成される保全協議会で検討を行い、平成21年度末には「千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画」及び「千葉県ヒメコマツ回復計画」を策定しました。平成26年度は、シャープゲンゴロウモドキ保全協議会を2回、ヒメコマツ保全協議会を2回開催して具体的な取組について協議を行い、各回復計画に基づいた保護活動が行われました。また、各回復計画が策定されて5年が経過するのを機に、それぞれ成果を踏まえた改訂を行いました。

○平成26年度の取組

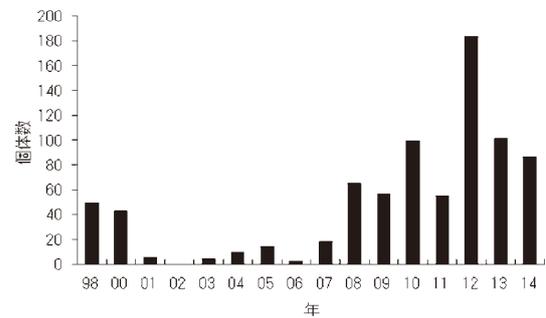
【シャープゲンゴロウモドキ】

シャープゲンゴロウモドキは、ゲンゴロウモドキ属の水生昆虫で、千葉県では最重要保護生物(ランクA)に、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IA類に選定されている、全国的に絶滅の危険性が高い生きものです。

特に、千葉県に生息している関東型と呼ばれる亜種は、かつては関東地方に広く分布していま



捕獲されたシャープゲンゴロウモドキ



シャープゲンゴロウモドキ
新規確認個体数の年次変化

たが、今では千葉県のごく一部の地域で生息するのみとなっています。そのため、平成23年4月1日には、環境省により「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」の「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲や譲渡等が禁止されました。

平成26年度は、現在の生息地における生息状況のモニタリングを実施しながら、生息環境の維持管理(草刈や水域の維持)を実施するなど、生息地域と個体数の拡充を進めています。

生息地において確認された成虫の総個体数は117個体、そのうち今年新たに確認された個体は86個体でした。

このように、本種の生息数は極めて少なく、個体群の維持が不安定な状況にあります。そのため、生息環境の整備と平行して、系統保存(由来が混ざらないように、個別に行う飼育)を、鴨川シーワールドの協力を得て継続しています。

なお、直接的な捕食や生息環境の破壊により本種の生息を脅かす、侵略的外来生物のアメリカザリガニについては、駆除作業の結果、平成24年度以降シャープゲンゴロウモドキ生息地周辺では確認されていません。今後もアメリカザリガニが再度定着することのないように、引き続き監視を継続しています。

そのほか、関係NPOによる生息地のパトロール、地元小学校の観察会、各種会合等における回復計画の周知などの活動を行いました。

【ヒメコマツ（ゴヨウマツ）】

ヒメコマツは、東北南部以南の太平洋側（本州・四国・九州）の山地に分布します。最終氷期には広範に分布していたものが、その後の温暖化に伴い標高の高い場所など冷涼な環境に局所的に残ったと考えられており、その中でも特に房総丘陵の個体群は、他から孤立した特異な存在であるだけでなく、房総半島の植物相や植生の成立を考える上で重要な生物です。しかし近年その個体数が急速に減少してしまったため、平成22年3月に千葉県ヒメコマツ回復計画を策定し、それに基づいて回復事業に取り組んでいます。

平成26年度は、継続的に実施しているヒメコマツ生育状況・繁殖状況のモニタリングを行うとともに、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林・県農林総合研究センター森林研究所等によって、系統保存個体の維持管理、さし木試験等を実施しました。残念ながら、新たに野生成木1個体の枯死が発見され、3地点22個体で調査した球果数は前年度のおよそ5分の1と、不作でした。

平成23年度に、「補強試験」としてかつての自



生育状況調査
(2014.11.28 清和西部地区で札番号62番の枯死を確認)

生地（清和県民の森）に植栽した苗木について生育確認を行いました。植えつけた28個体はほぼ順調に生育していましたが、シカ食害防止のために設置した金網内でウラジロ等のシダが茂っていたため、これを手で除去しました。

「試験植栽」として「ちば千年の森を作る会」の協力のもと補植した君津市豊英の通称「豊英島」での生育状況調査の結果、植栽した38個体のうち新たに1個体が枯死、1個体が不明となり、生存しているのは30個体となりました。

平成27年1月23日（金）には、清和県民の森とその周辺のヒメコマツ自生地（君津市及び富津市）にて観察会を開催しました。藤平量郎氏（房総のヒメコマツ研究グループ代表）と尾崎煙雄氏（千葉県立中央博物館）を講師として、野生のヒメコマツがどのような環境に生育しているか学習できるコースを選定したところ、一般参加者23名（うち県立君津青葉高等学校の教諭2名、生徒11名）、ヒメコマツ保全協議会5名、自然保護課・多様性センター6名、計34名の参加を得て活気ある観察会となりました。

※両回復計画については、生物多様性センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.bdcchiba.jp/endangered/index.html>



ヒメコマツ観察会 (2015.1.23)

絶滅危惧種対策事業

2 ミヤコタナゴ保護増殖事業

ミヤコタナゴは、湧水を水源とする細流やため池などに生息するコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。かつては関東地方に広く分布していましたが、都市化にともなう生息環境の悪化により、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ分布しています。

本種は、「種の保存法」により「国内希少野生動物種」に指定されているほか、「文化財保護法」により「天然記念物」に指定されています。

生物多様性センターでは、本種の保護増殖を図ることを目的に、生息状況の把握や生息水路等の環境維持ならびに個体群の系統保存等を行っています。

○平成 26 年度の取組

環境省受託事業「希少野生動物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）」として、県内の生息地がある茂原市、いすみ市、夷隅郡御宿町、勝浦市においてミヤコタナゴや産卵母貝であるイシガイ科二枚貝の生息状況調査を行いました。

また、生息水路内の環境を維持するため、水路の補強や不適な植物、外来種等の除去を行ったほか、関係市町担当者による情報交換会議を行いました。

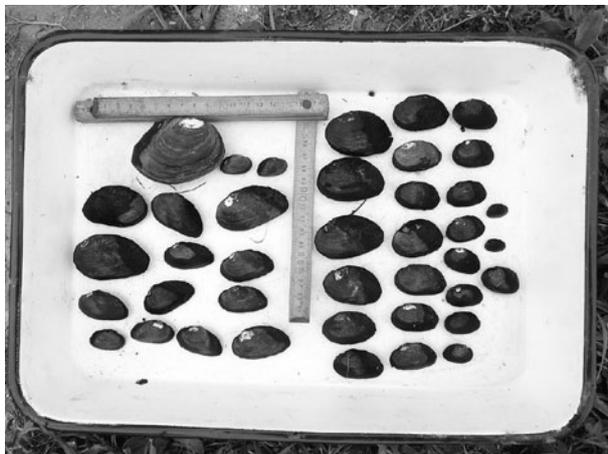
ミヤコタナゴの各個体群（系統）については、飼育繁殖を行うことができる施設を持つ千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所、いすみ環境と文

化のさとセンター、(公社) 観音崎自然博物館において、飼育下個体数の増加を図り、生息地ごとに系統保存を行いました。また、鴨川シーワールドとすみだ水族館にも協力いただき、人工飼育下における系統保存を推進しています。

○ミヤコタナゴ保全シンポジウムの開催

ミヤコタナゴ保全の現状と課題を抽出し、今後の保全活動や事業の中でどのような対策を実践していくかを明らかにすることを目的として、御宿町・千葉県・環境省の主催で、シンポジウムを開催しました。当日は、県内外からのべ 165 名の方々に参加していただき、ミヤコタナゴの保全をどのように推進していくかについて議論しました。

シンポジウムでは、ミヤコタナゴを保全していく上での課題として、①イシガイ科二枚貝類の減少、②保全に関係する人材の確保、が挙げられました。パネルディスカッションでは、これらの課題について、講演者である御宿町ミヤコタナゴ保存会や専門家の方々のみならず、会場を含めて活発な議論が行われました。



ミヤコタナゴが産卵する二枚貝類

希少種ミヤコタナゴから生命のいのちを考える
～ミヤコタナゴの減少要因をさぐり、生息地の復元と維持管理をどのように行うか～

平成 26 年
11/8
(土)
10 時～16 時 20 分
(受付 9 時 30 分～)

会場 御宿町公民館 大ホール
千葉県夷隅郡御宿町久保 2200

入場無料 定員 200 名 (当日受付)

ミヤコタナゴという魚をご存じですか？

そして、この美しい『水路の宝石』が絶滅の危機に瀕していることを

望月 賢二氏 (元千葉県立中央博物館 副館長)
石橋 善寛氏 (公益社団法人 観音崎自然博物館 館長)
御宿町ミヤコタナゴ保存会
鹿谷 花子氏 (栃木県環境林部自然環境課 主査)
西尾 正輝氏 (富山県氷見市教育委員会 主任学芸員)
根岸 淳二郎氏 (北海道大学 大学院地球環境科学研究科 准教授)
森 誠一氏 (岐阜経済大学 教授 / 藤野大野市「イトヨの里」 館長)

生物多様性に支えられた「小さな生命の未来」について、いっしょに考えてみませんか？

お問い合わせ先 御宿町役場 建設環境課 環境整備班
電話 0470-68-6694 / FAX 0470-68-7183 電子メール kankyou@town-onjuku.jp

主催 御宿町・千葉県・環境省 後援 文化庁・千葉県教育委員会・栃木県・日本魚類学会

ミヤコタナゴシンポジウムのポスター

絶滅の危険性の評価

千葉県レッドデータブックの改訂

1 レッドデータブックとは何か

レッドデータブック Red Data Book (RDB) とは、絶滅のおそれのある野生生物に関する情報をまとめた本です。種（あるいは、亜種、変種）ごとに絶滅の危険性を6段階のランクで評価し、形態や性質などの特徴、生息・生育状況、分布、保護対策などを記述しています。また、種名とランクのみをリスト形式で掲載したものをレッドリスト Red List (RL) と呼びます。

2 これまでの経緯

県では平成7年度からレッドデータブックの編纂が始まり、平成10年度に「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物編」を発行しました。そして平成11年度に「動物編」、平成12年度に「普及版」を発行しました。その後得られた情報に基づいて、平成15年度にレッドリスト「植物編」、平成17年度にレッドリスト「動物編」を発行しました。

平成19年度からは「生物多様性ちば県戦略」を推進する取組のひとつとして、レッドデータブックとレッドリストの定期的な見直しを行っています。平成20年度には「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 2009年改訂版」を、平成22年度は「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編 2011年改訂版」を発行しました。

さらに、動植物種について個別に絶滅リスクを評価するだけでなく、地域独自の環境を基盤として成立した生物種の集合体（群集・群落）についても、特異性や重要性、脆弱性を評価して保全を目指すことが望まれます。そこで平成23年度からは、千葉県レッドデータブック群集・群落編の発行に向けて、動植物の専門家で構成される「千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成委員会」（平成25年度から作成検討会に名称変更）によって、現況及び文献の調査と編集作業が進められています。

3 平成26年度の取組

平成26年度には、千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会を1回、同検討会内に設置された群集・群落部会を2回開催し、群集・群落編（仮称）について検討を行いました。

また、千葉県固有種イスマスズカケの記載や、1954年以降県内から生息が確認されていなかったアダチアカサシガメの再発見を受けて、これらを含む5種について、レッドデータブックへの追加やランク変更を行い、「千葉県の保護上重要な野生生物 - 千葉県レッドデータブック - 追録」第3号を発行、頒布しました。



アダチアカサシガメ（撮影：尾崎煙雄氏）

4 入手方法について

「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 2009年改訂版」、「同動物編 2011年改訂版」、「同 追録」は、生物多様性センターのウェブサイトから全ページをダウンロードできます。また、植物・菌類編及び動物編については、千葉県文書館で冊子体を有償頒布しています。

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種緊急特別対策事業

県内で急増し、在来の生態系や農作物等へ被害をもたらす外来生物に対応するため、「外来種緊急特別対策事業」として、生物多様性センターでは緊急性の高いカミツキガメやウチダザリガニの個別対策を実施しました。また、外来植物のナルトサワギクについて生育状況の把握や防除方法について検討しました。

今後も引き続き、環境省や地元市町村と連携の上、より充実・強化した対策に取り組む必要があります。

1 外来種緊急特別対策事業

(1) カミツキガメ

本種は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）により特定外来生物に指定されています。県では平成19年度に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」を策定し、国の確認を受けて、計画的な防除を実施しています。

本県では、特に印旛沼周辺において本種の自然繁殖が確認されています。平成26年度は、高崎川、南部川及び鹿島川などの流入河川部、西印旛沼及び周辺水路において、誘因餌を用いたワナによる捕獲作業を実施しました。捕獲作業は、平成26年5月14日から8月19日に実施しました。

これらの捕獲作業の結果、高崎川で103個体、南部川で44個体、鹿島川で190個体、西印旛沼で179個体の合計516個体を捕獲しました。性判定できた捕獲個体の大きさは、背甲長で雄が $206.5 \pm 51.9\text{mm}$ (n=296)、雌が $187.3 \pm 51.2\text{mm}$ (n=200)でした。

平成26年度は、上記の捕獲作業のほかに、印旛沼水系周辺の用水路での捕獲を行いました。捕獲作業は、南部・高崎地区と臼井地区において、平成26年5月16日から11月20日の間に実施しました。用水路での捕獲の結果、南部・高崎地区では117個体、臼井地区では99個体の合計216個体を捕獲しました。

また、県では、一般市民からの通報により地元市町村や警察が緊急的に収容した個体の殺処分等を実施しています。これらの発見情報は、県内の生息状況を把握するための重要な情報です。

平成26年度に緊急収容された個体は、印旛沼周辺域で163個体、その他地域で12個体、合計175個体でした。このため、平成26年度に千葉県で捕獲されたカミツキガメの総捕獲数は907個体であり、そのうち98.7%が印旛沼周辺水域からの収容個体でした。



カミツキガメ



カミツキガメ捕獲の様子

(2) ウチダザリガニ

当センターでは、平成 21 年 9 月に利根川水系長門川（印旛郡栄町）において、関東で初めてとなる特定外来生物ウチダザリガニの生息を確認したことから、生息状況調査を実施するとともに関係者からの情報収集に努めています。

平成 22 年から 24 年度にかけてワナを用いた捕獲作業を実施しましたが、ウチダザリガニは 1 個体も捕獲されなかったことから、平成 25 年度以降は、ワナを用いた捕獲作業は実施していません。しかし、まだ低密度で生息している可能性はあり、隠遁性が高いために生息数が少なければ発見するのは難しい一方で、産卵数が多いことから繁殖に成功すれば大規模に増殖することが懸念されます。

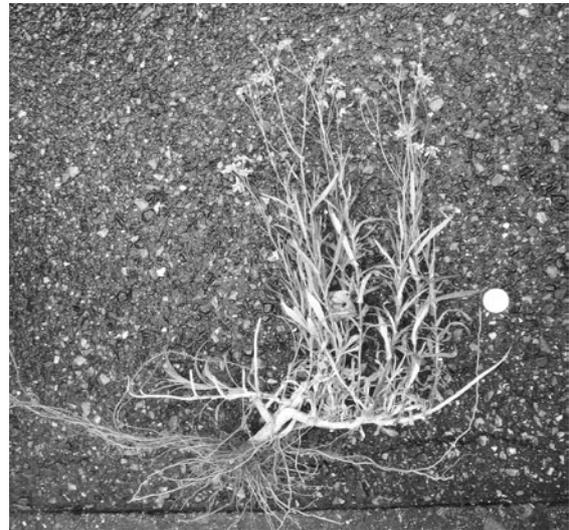
このため、千葉県では今後も本種の生息動向をモニタリングするとともに、地元漁業者等関係者とともに、状況把握や防除に努めていきます。

2 ナルトサワギクの防除

特定外来生物に指定されているナルトサワギクは、館山市と南房総市の内陸部など数カ所で繁茂しています。生物多様性センターでは地元自治体や中央博物館、そして地域の市民団体である安房生物愛好会と協力して防除のための調査研究と広報を行ってきました。

平成 22 年には、安房生物愛好会が中心となり、大規模な手取り除草が行われました。しかし、除草後も多量の芽生えが観察され、効果は限定的でした。そこで平成 23 年度は、除草後に防草シートを敷く方法を試み、一定の効果が確認されました。ただし、大変な労力がかかり、しかも広範囲に敷くのが困難なため、より効率のいい方法が望まれました。

平成 24 年には、専門家を交えた検討を踏まえ、生長の旺盛な草の種子をまくことにより、ナルトサワギクの生育を抑制できることがわかりました。しかし、併せてナルトサワギクの抜取りをしない



ナルトサワギク
数年するとすぐ大株に。右の○は 500 円玉

と次第に元に戻ってしまうこともわかり、現在もモニタリングと除去を継続して行っています。

また、平成 24 年からは茂原市内の生育地で、新たに見つかった株の除去を、茂原市とボランティアの協力を得て行っています。

平成 26 年度もこれまでの生育地を中心に、安房生物愛好会やボランティアの協力を得て監視や除去を行いました。その結果、生育地の広がりも個体数も抑制が進んでおり、さらに防除を進めるべく、対処を続けています。

野生鳥獣類と人との共存をめざして

有害鳥獣対策の推進

近年、県内各地で野生鳥獣類による農作物等への被害が発生し、深刻化しています。これは主に、獣類（哺乳類）の生息数の増加による影響であることが推察されます。また、イノシシやニホンジカ等だけでなく、特定外来生物のアライグマやキョンによる被害が増加していることも問題です。このため、生物多様性センターでは、自然保護課鳥獣対策班等と連携して、特に獣類の生息状況を中心に、有害鳥獣対策のための調査研究および情報提供を行っています。

平成26年度は、下記の取組を推進しました。

1 アライグマ対策

県内におけるアライグマの捕獲状況や対策手法等について、自然保護課鳥獣対策班が主催する「アライグマ・ハクビシンセミナー」等を通じて、市町村等への情報提供を行いました。

2 イノシシ対策

イノシシによる被害は県内の広域で発生し、その被害額も高止まりの状況にあります。そのため、県、市町村、関係団体により構成され、イノシシを中心とした県内の野生鳥獣対策を総合的に推進している「千葉県野生鳥獣対策本部」において、赤外線カメラによる獣類のモニタリング手法や、イノシシの捕獲状況等に基づく個体数推定手法の検討結果等についての情報提供を行いました。

また、イノシシ対策の手法等について、県野生鳥獣対策本部が主催する野生鳥獣対策フォーラムや農業事務所の講座等において情報提供を行いました。

3 ニホンジカ対策

捕獲状況や糞粒調査結果等に基づいて、県内のニホンジカの生息状況等を分析し、それらの結果を関係市町村等へ情報提供しました。

また、それらの研究結果の一部を「千葉県生物

多様性センター研究報告」において報告しました。

4 キョン対策

キョンは、千葉県と伊豆大島（東京都）でのみ野生化し、農作物等への被害が発生しています。そのため、捕獲状況や糞粒調査結果等に基づいて、県内のキョンの生息状況等を分析し、それらの結果を関係市町村等へ情報提供しました。

また、それらの研究結果の一部を「千葉県生物多様性センター研究報告」において報告しました。

5 カワウ対策

県内各地で生息数が増加し、漁業被害等が発生しているカワウについて、生息状況調査等の結果を分析し、被害防止対策に係る今後の課題を取りまとめ、「千葉県生物多様性センター研究報告」において報告しました。



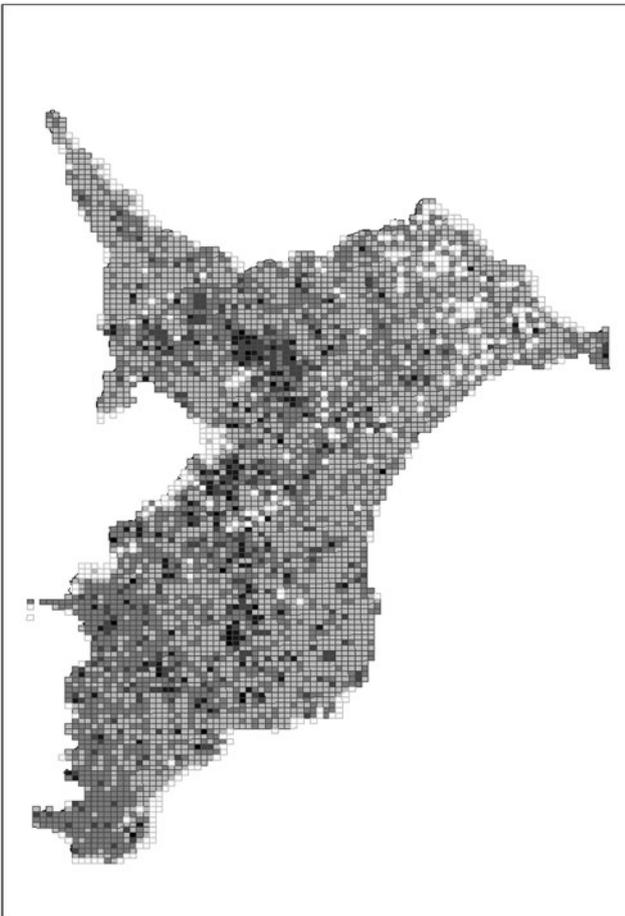
キョン

生物多様性情報の収集・管理・提供

生物多様性地理情報システムの管理運用

1 事業の概要

生物多様性の保全・再生及び持続的な利用の推進にあたっては、生物多様性に関する基礎情報としての生物分布情報の整備は欠かせません。しかし、このような基礎情報は、論文や報告書などの紙媒体で記録されているものが多く、情報の検索には大変な手間がかかります。また、県内の各事業によって作成されたデータベースもいくつか存在しますが、そのデータは各部署で個別に管理されており、情報入手には様々な手続きが必要です。このような状況を解決するため、平成 18 年度から、県内の生物多様性に関する情報を収集・電子化し、それらを地理情報と共にデータベースとして一元管理するという「千葉県生物多様性地理情報システム」の構築を進めています。



GIS データの整備状況
色が濃い地域ほど、多くのデータがあります。

2 システムの目的

本システムは、県内の生物多様性に関する情報を統合的に管理することを目的としています。本システムを活用することにより、県内各地の生物多様性の状況と、現在の土地利用や今後の開発計画、保護指定などの状況とを関連させ、今後どのような施策を行っていくかを判断するための情報を提供することができるようになります。

3 システム構成の概要

千葉県生物多様性地理情報システムは、平成 18 年度に基本設計を終え、生物分布情報を基本的には 3 次メッシュ（1:25,000 地形図を 100 等分した範囲、約 1 km²）をベースとして管理することに決定しました。システム構築には ESRI 社の GIS ソフトウェア ArcGIS を用い、独自の機能を追加して運用しています。

4 データベースの内容

データベースは、県立中央博物館の生物標本データ、自然保護課発行の報告書、各種論文、環境影響評価書等より抽出されたデータに加え、生命のにぎわい調査団員による生物報告もあわせて、約 129 万件の生物分布情報等で構成されています。

5 システムの活用

本システムを用いて、さまざまな生物情報の分布図作成や解析が行われています。例として、生命のにぎわい調査団の報告集計や、カミツキガメ対策等に活かされています。また、開発計画がある地域で希少種の出現記録確認等、生物分布情報の照会にも随時対応しています。

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の普及啓発と推進にあたり、多様な主体により生物多様性の状況をモニタリングする取組が重要なことから、広く県民に呼びかけて、生態系の指標となる生物や外来生物などの身近な生きものの情報提供を受ける事業を行っています。

2 目的

「生命（いのち）のにぎわい調査団」は、生物の発見情報を団員から報告してもらい、生息状況や季節報告（飛来・初鳴き、産卵、植物の開花等）を把握することにより、身近な生物の分布や経年変化、外来生物の分布拡大、地球温暖化による生物への影響など生物多様性の変化を把握するための調査モニター制度として、平成 20 年 7 月に発足しました。

3 調査団員の状況

県内全域の多くの人に参加してもらえるように、県民だよりや県内の環境フェア等でも広く調査団員の募集を行い、団員数は現在 1,020 名（平成 27 年 3 月末現在）です。

団員の年齢構成の特徴として、50 歳代以上が全体の約 6 割を占め、時間にゆとりのできた世代が自然環境保全や生物の観察への関心が高いことがわかりました。また、18 歳未満は約 1 割、その親世代にあたる 30 歳代と 40 歳代が約 2 割であり、「生命のにぎわい調査」を次の世代へつなぐための重要な役割を担っています。

4 調査の対象生物

里山、海辺など千葉県が多様な環境で見られる生物のうち、種類の区別がつきやすく、身近に生息・生育している動植物 57 種を選定し、調査対象生物としています。生息・生育を確認した生物の情報は、報告用紙の郵送・FAX 送付、または当調査団ウェブサイトの報告フォームによる送信で提供を受けています。

調査対象生物以外の発見報告も受けており、これまでの報告の中には、里山の生態系を象徴するサシバや希少種のオオタカ、サンカノゴイ、タマシギ等の希少な鳥類の報告もあります。

5 平成 26 年度の取組

(1) 生物報告の件数

生物報告の件数は、平成 26 年度は約 18,700 件で、調査団発足から平成 26 年度末までの 6 年 8 ヶ月間の累計件数は 49,134 件となりました。

(2) 生物報告の分析と情報発信

生物報告の分析結果は「生きもの分布図（発見マップ）」、開花、紅葉、初鳴き、産卵などの「生きもの季節マップ」などとして取りまとめています。平成 26 年 10 月に香川県高松市で開催された第 17 回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC17)では、「県民参加型生物モニタリング調査「生命（いのち）のにぎわい調査団」5 年間の活動の成果」と題して発表を行いました。また、生命のにぎわい調査フォーラムでは、「調査団の生き物調査報告のデータ解析」として、概要を報告しました。

情報発信のために「生命（いのち）のにぎわい調査団」のウェブサイトを開設し、毎月の生物報告や生きもの分布図、調査対象生物の生態や見分け方、生物多様性に関わる企画等の情報提供を随時行っています。<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>



生命（いのち）のにぎわい通信

生命（いのち）のにぎわい調査団

団員向けの通信「生命（いのち）のにぎわい通信」を30号から33号まで年4回発行し、生物報告の分析結果と生物多様性の保全に向けた取組の紹介、県内に生息・生育している希少生物や外来生物等の情報も提供しました。

この通信は、調査団員に配布するほか、生物多様性に関連するシンポジウム等の参加者へも配布しました。

（3）調査団の研修会等

調査団員の観察技術の向上、すなわち本県の自然や調査対象生物の見つけ方・見分け方を学んで生物報告の情報の正確性を向上させるために、現地研修会を実施しました。また、これまでの調査結果の検討などを行う「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しました。

①現地研修会

「初夏の森と溪流で生きものを探してみよう！」

平成26年5月31日（土） いちはら市民の森（市原市） 参加者50名

いちはら市民の森で野鳥やカエルの仲間、魚類、甲殻類、昆虫など、幅広く観察を行いました。暑い一日でしたが、大勢の参加者が目を凝らして、たくさんの生きものを見つけることができました。

「里山の秋をみつけよう！ 紅葉のなかで秋の花や実、カワセミやオシドリを見よう！」

平成26年11月24日（月・振替休日） 泉自然公園（千葉市） 参加者59名

紅葉の泉自然公園で研修会を行いました。

午前中はつり橋から下の池、湿生植物園へと歩き、紅葉した樹木や、カワセミ等の野鳥を観察しました。午後は下の池にかけておいたワナを引き上げて魚やエビの観察、また、歩きながら植物や鳥の観察をしました。ニホンイタチ、ニホンノウサギ、タヌキが残した糞や足跡も観察しました。

②生命のにぎわい調査フォーラム

平成27年3月7日（土） 県立中央博物館講堂 参加者69名

- ・講演「千葉県の自然公園」
- ・報告「調査団の生き物調査報告のデータ解析」
- ・報告「地理情報システムを用いた生物の生息分布と周辺の土地利用について」
- ・4名の団員からの「観察事例の紹介」
- ・情報交換（生物多様性センターから話題提供2題）
- ・入団1000人目の記念品授与
- ・写真コンテスト

フォーラム参加者の投票により、応募34作品から上位2点を表彰しました。

また、応募作品は、トピックス展「生命のにぎわい」～生命のにぎわい調査団 生物多様性展～として、平成27年3月10日（火）～5月10日（日）に中央博物館第2企画展示室にて展示しました。



現地研修会



調査フォーラムでの発表

イベントによる情報発信

生物多様性保全に関する普及啓発事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性」をより社会に浸透させることを目的に、県内の市町村や企業と協働して、生物多様性に関する巡回展示や巡回講座などの普及啓発活動を行いました。

2 巡回展示

「第3回袖ヶ浦市環境フェスタ」(6月22日)や「八千代市環境展」(6月24日～29日)、「エコメッセ2014 in ちば」(9月23日)、「第1回自然誌フェスタ千葉」(11月3日)などの市町村等が開催する17の環境関連イベントに出展し、生物多様性に関連する普及啓発活動を行いました(展示一覧は28頁参照)。展示ブースでは、パネルの解説と展示したパネルの理解を深める「生命(いのち)のにぎわいクイズ」を実施し、ミヤマクワガタなど52種類の「千葉県の生きもの」と、カミツキガメなど6種類の「特定外来生物」の缶バッジを製作し、クイズの参加記念品として配布しました。

3 巡回講座

外来種や希少種など、生物多様性をテーマに、様々な機会に講演を行いました(講座一覧は26頁参照)。



『第3回袖ヶ浦市環境フェスタ』
出展の様子 (H26.6.22)



巡回展で展示したパネルの例
(パネルは貸し出しも可能です。)

ウェブサイトによる情報発信

生物多様性保全に関する普及啓発事業

概要

生物多様性センターのウェブサイトは、生物多様性センターの取組を多くの方に伝えることを目的に、平成20年5月に公開しました。

記事の追加・更新・修正などを月に2～3回の頻度で行い、情報発信をしています。アクセス数は、月3万件以上あり、特にレッドデータブックや研究報告など、出版物をダウンロードするページが多く閲覧されています。



トップページ画像ギャラリーのページ

トップページの各項目の主な内容	
項目	内容
センターの概要	生物多様性センターの発足経緯、5つの機能、問い合わせ先等について記述
生物多様性ちば県戦略	自然保護課の生物多様性ちば県戦略のページへのリンク
絶滅危惧種の保護	絶滅危惧種の回復計画、レッドデータブックについての紹介
外来種対策	外来種問題への取組みについて紹介
ビオトープの推進	ビオトープ推進マニュアル、学校ビオトープの取組について紹介
生物多様性モデル事業	生物多様性モデル事業についての説明・紹介のページ
多様な主体との連携・協働	県と連携協定を結んでいる県内6大学やNPO、企業などとの連携・協働について紹介
生物多様性GIS	生物多様性地理情報システムの内容、主な特定外来生物分布図を紹介
生物多様性モニタリング	県で実施している生物多様性モニタリング事業についての紹介
にぎわい調査団	「生命（いのち）のにぎわい調査団」に関するページ
千葉県生物多様性	千葉県の生物多様性に関するトピックス的な話題を分かりやすく紹介
刊行物	「生物多様性ちばニュースレター」「学校ビオトープ事例集」「研究報告」「生物多様性ハンドブック」等の生物多様性センターで発行する刊行物の紹介
生物多様性用語集	生物多様性に関する用語を解説
生物多様性写真館	県内の生物多様性ホットスポットや生き物図鑑、外来種などを写真で紹介
展示・講座・イベント	生物多様性についての巡回展示、講座、イベントについて紹介
リンク	県内外の生物多様性に関する機関のウェブページへのリンク集
生物多様性ちば企業ネットワーク	企業による生物多様性の保全及び持続可能な利用取組の支援
URL http://www.bdcchiba.jp/	

刊行物の発行

生物多様性保全に関する普及啓発事業

生物多様性センターでは、生物多様性に関する各種刊行物を発行し、関係各所に配布するほか、生物多様性に関連する各種イベントにおいても配布しています。また、ウェブサイト上でご閲覧いただけます。

研究報告

千葉県生物多様性センター研究報告は、千葉県の生物多様性に関連する分野の原著論文、調査報告などを掲載しています。

ニュースレター「生命(いのち)のにぎわいとつながり」

生物多様性についての理解の促進や、生物多様性ちば県戦略の普及啓発、生物多様性センターの取組に関する情報発信などを行うため、ニュースレター「生命(いのち)のにぎわいとつながり」を年5回発行しています。

巻頭の生物多様性に関する特集や、生物多様性の保全に向けた取組の紹介、千葉県に生育・生息している希少種や外来種の紹介、生物多様性センターからのお知らせなどを掲載しています。



生物多様性ちばニュースレター
「生命(いのち)のにぎわいとつながり」

平成26年度発行 ニュースレター「生命(いのち)のにぎわいとつながり」	
発行日等	主な内容
NO.38 (5月30日)	・特集「鴨川シーワールドに生物多様性コーナーがオープン」 ・企業との連携の推進
NO.39 (7月31日)	・特集「絶滅が危惧される房総のヒメコマツの保全」 ・生命のにぎわい調査団 いちはら市民の森で初夏の溪流の生きものを観察
NO.40 (10月31日)	・特集「磯の生きものから見た千葉県の生物多様性」 ・ビオトープ実地講座及び生物多様性に関する市町村職員研修会を開催
NO.41 (1月30日)	・特集「ミヤコタナゴ保全シンポジウム～希少種ミヤコタナゴから生命(いのち)のにぎわいを考える～を開催」 ・連携大学の研究成果発表会を開催
NO.42 (3月31日)	・特集「『私の生物多様性』,地域戦略づくりのアンケート調査より」 ・生命のにぎわい調査団 泉自然公園で秋の里山の生きものを観察

平成26年度発行 千葉県生物多様性センター研究報告 第9号 目次	
・千葉県印旛沼水域において平成26年度に確認されたカミツキガメの産卵巣、及び卵の被食 高山順子・松沢陽士	
・千葉県におけるニホンジカの捕獲状況および栄養状態モニタリングー2013(平成25)年度ー 鈴木規慈・萩原妙子	
・千葉県におけるキョンの捕獲状況および栄養状態モニタリングー2013(平成25)年度ー 鈴木規慈・大澤浩司・久保田尚	
・千葉県におけるカワウの生息状況と今後の課題 鈴木規慈	

生物多様性サテライトの設置

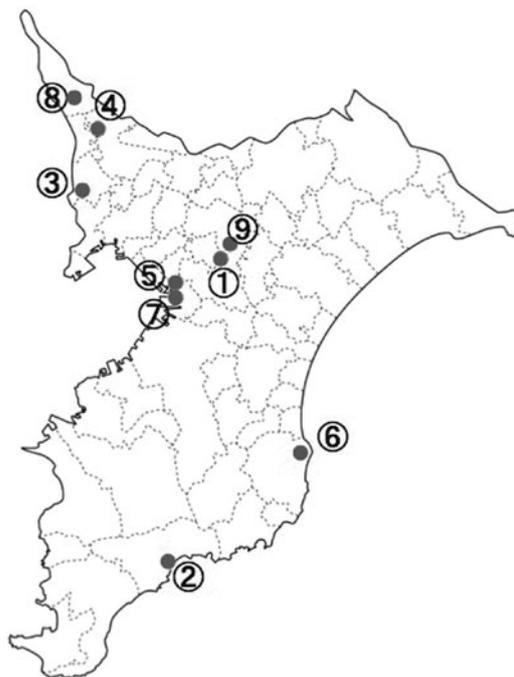
生物多様性サテライト設置事業

1 事業の概要

千葉県生物多様性センターでは、生物多様性の普及啓発を目的として、平成23年度から県内各地に展示スペース「生物多様性サテライト」の設置を行っています。

2 平成26年度の状況

4年目となる平成26年度は、新たに㈱フジクラ佐倉事業所にサテライトを設置し、計9カ所となりました。生物多様性の重要性についてのパネルを展示するとともに、ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」や「生命のにぎわい調査団」入団申込書などを配布しました。



- ① DIC 川村記念美術館（佐倉市）
- ② 鴨川シーワールド（鴨川市）
- ③ 千葉大学（園芸学部）（松戸市）
- ④ 東京大学（柏キャンパス）（柏市）
- ⑤ 東京情報大学（千葉ステーションキャンパス）（千葉市）
- ⑥ 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター（いすみ市）
- ⑦ NTT 東日本千葉事業部 富士見ビル（千葉市）
- ⑧ キッコーマン（株）（もの知りしょうゆ館）（野田市）
- ⑨ ㈱フジクラ佐倉事業所（佐倉市）

生物多様性サテライト設置場所



② 鴨川シーワールド（鴨川市）



⑨ ㈱フジクラ佐倉事業所（佐倉市）

ビオトープの推進

地域と連携したビオトープの支援展開

1 「学校ビオトープの推進」から「地域と連携したビオトープの支援展開」へ

学校ビオトープは、児童・生徒が身近な自然とふれあいながら地域の生物について学ぶことができる場です。また、これは地域の多様な生物の生育地・生息地になるなど、地域の自然環境にとっても大変重要なものです。

自然保護課では平成20年度から平成22年度にかけて、学校と地域が連携した学校ビオトープの整備を支援するため、小学校延べ30校と高等学校延べ8校のビオトープの整備費等に対し補助を行ってきました。

平成20年度から平成24年度には、学校ビオトープの整備・活用方法や課題を情報交換し、水辺や植生の管理、観察の方法などについて学ぶ「学校ビオトープフォーラム」を、各年度1回ずつ開催しました。

このように平成20年度から行われていた学校ビオトープの推進事業は平成24年度で終了し、平成25年度からは地域と連携したビオトープの支援展開事業を行っています。

2 ビオトープ実地講座の開催

平成25年度からは、ビオトープ支援事業として、「ビオトープ実地講座」を開催しています。「ビオトープ実地講座」は、県内の企業・市民団体・学校等でビオトープの整備や維持管理に携わる方々を対象とし、ビオトープを立ち上げた後によく生じる問題に対処する方法や、円滑に管理する方法についての講演を行うとともに、実際に長年維持管理されているビオトープ内を担当者の解説を交えて見学するものです。なお、平成25年度は、大雪のため中止となり、平成26年度に次の日程及び内容で実施しました。

日時：平成26年7月30日（水）13:00～16:15

場所：市立市川自然博物館及び市川市動植物園自然観察園

参加人数：53名

プログラム：

1. 講演「ビオトープ維持管理上の問題と解決方法」
公益財団法人日本生態系協会教育研究センター長 田邊龍太氏
2. 市川市動植物園自然観察園の見学
市立市川自然博物館学芸員 金子謙一氏



講演の様子



市川市動植物園自然観察園

大学との連携

生物多様性大学連携事業

1 連携協定の締結

平成20年12月24日に、県と江戸川大学、千葉大学大学院園芸学研究科、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学の6大学との間で「生物多様性に関する千葉県と大学との連携に関する協定書」を締結しました。この協定における連携項目としては、

- ①情報の共有
- ②モニタリングの実施
- ③共同研究
- ④人的交流・人材育成

を掲げています。これに基づき、以下の取組を実施しました。

2 委託研究

平成26年度は千葉大学と東京情報大学に生物多様性保全のための研究を委託しました。

3 研究成果発表会の開催

「千葉県と連携大学との研究成果発表会—大学・市民・行政の生物多様性保全の取組」を、平成26年11月9日(日)に東京大学柏キャンパスにおいて開催しました。柏市、市川市、及び千葉県が各自治体の生物多様性保全に関する取組を紹介した後、6大学による12題の発表のほか、3つのNPOまたは市民団体がそれぞれの活動を紹介しました。

【発表者とタイトル(発表順)】

松本寛人(柏市環境部環境政策課)

柏市生きもの多様性プランについて

浮貝昌彦(市川市環境清掃部環境政策課)

「生物多様性いちかわ戦略」について

中村俊彦(千葉県生物多様性センター/県立中央博物館)

千葉県における生物多様性地域戦略づくり

吉永明弘(江戸川大学)

生物多様性の普及啓発の手法について CEPA ツールキットの紹介

上原浩一(千葉大学)

絶滅危惧種イヌミズカケの保全活動について

福田健二ほか(東京大学)

東大柏キャンパス周辺の森林における放射能汚染の実態

渋谷園実・福田健二(東京大学)

里山管理の生物相への影響

宮本裕美子(東京大学)

土壌微生物の種多様性 - 樹木共生菌の事例 -

松村愛美・福田健二(東京大学)

関東地方の山地林と都市林における樹木葉内生菌の多様性比較

NPO 法人ちば里山トラスト

柏市「大青田の森」における里山保全活動

NPO 法人こんぶくろ池 自然の森

こんぶくろ池自然博物公園園化に向けて

河野博(東京海洋大学)

小櫃川河口干潟の魚類の多様性

佐藤瑤子ほか(東京情報大学)

千葉県の生物多様性情報のマッピング 1. レッドデータブックを用いた解析

小田豪生ほか(東京情報大学)

千葉県の生物多様性情報のマッピング 2. 生命のにぎわい調査団データを用いた解析

加賀山翔一(東邦大学)

淡水生カメ類の空間分布解析 - ニホンイシガメの保全に向けた環境選考性と生息域の究明 -

坂入一瑛(東邦大学)

生息適地の推定に基づくジャノメチョウのメタ個体群構造の把握

山崎響子(東邦大学)

館山・南房総におけるアライグマ(Procyon lotor)の環境選好性と、在来生物への影響評価

寺園直美(神崎川を守るしろい八幡溜の会)

印旛沼水系神崎川源流部の土水路と八幡溜湿地の保全活動の紹介

4 人的交流・人材育成

東京大学大学院2名、東京情報大学2名、東邦大学大学院1名、中央大学1名の計6名のインターンシップ実習生を受け入れました。

5 連絡会議

平成26年7月18日及び平成27年3月11日に、県と各大学の関係者による連絡会議を開催し、連携内容について意見交換が行われました。

企業との連携

生物多様性に関する企業との連携推進事業

農林水産業から製造業、サービス業まで全ての企業は、直接的または間接的に生物多様性を利用し、企業活動を行っています。そのため、生物多様性の急速な損失は、企業の存続にかかわる問題でもあります。同時に、企業活動は生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の保全を推進するためには、企業による生物多様性への配慮が不可欠です。

このような理由から国内外で、多くの企業が生物多様性に関心を持ち、生物多様性の保全と持続可能な利用のために、企業独自の行動指針やガイドラインの策定、事業活動の中での取組、社会貢献としての取組などを始めています。

しかしながら、企業活動と生物多様性の関係は分かりづらく、社会での認知度も低く、さらに、保全の取組は地域ごとの対応が必要なため、企業にとっては、関心はあっても実際の取組にまで結びついていないのが現状です。

そのため千葉県では、企業の皆様へ、県内の生物多様性に関する情報や先進的な企業による取組事例などの情報共有を行うために、「企業と生物多様性セミナー」を（一社）千葉県環境保全協議会と（一社）千葉県経済協議会との共催で平成21年度から開催しています。

平成26年度は下記のとおり開催しました（通算14回）。



企業と生物多様性セミナー

	日時・場所	セミナー内容
第13回	平成26年11月12日(水) 東京情報大学 千葉ステーションキャンパス	テーマ：「自然資本」を見据えた生物多様性の取組 講演：「自然資本」を見据えた事業戦略の新潮流ー積水ハウスの取り組みをベースに展望を探るー 積水ハウス(株) 環境推進部 部長 佐々木 正顕氏 千葉県からの情報：希少種保全のための積極的アプローチー希少淡水魚ミヤコタナゴを例にしてー
第14回	平成27年2月2日(月) 東京情報大学 千葉ステーションキャンパス	テーマ：自然豊かな工場建設と地域連携 講演：サンデングループの生物多様性への取り組みーサンデンフォレスト・赤坂事業所での活動 サンデン(株) 環境推進部 主席 齊藤 好弘氏 千葉県からの情報：千葉県の絶滅危惧種ヒメコマツの現状と回復計画 事例報告：東日本電信電話(株)千葉事業部 ：鴨川シーワールド開発展示課

さまざまな連携活動等

多様な主体との連携

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、国や地方自治体（主に都道府県）で自然系（自然環境保全、野生動植物保全の分野等）の調査研究を行っている機関が、相互の情報交換、情報共有を促進し、ネットワークの強化を図り、科学的情報に基づく自然保護施策の推進に寄与することを目的として平成10年11月に発足しました。事務局は山梨県富士吉田市にある環境省自然環境局生物多様性センターで、千葉県では千葉県生物多様性センターと中央博物館が、平成20年度から加入しています（平成27年3月現在、全国27道府県の41機関が参加）。

会議は毎年1回・10～11月に、一般公開での研究発表会（1日目；口頭・ポスター）と連絡会議・施設見学・エクスカージョン（2日目）を併せて開催されています。平成26年度は10月23日（木）～24日（金）に香川県高松市のアルファあなぶきホール（香川県民ホール）で開催され、千葉県生物多様性センターからは「県民参加型生物モニタリング調査『生命（いのち）のにぎわい調査団』5年間の活動の成果」と題して報告を行いました。



NORNAC17
（香川県）

生物多様性に関する市町村職員研修会

平成26年8月26日（火）に県立中央博物館において、生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました。生物多様性保全のためには、市町村による取組も不可欠です。生体を用いたカミツキガメの取扱いに関する説明や、外来種や希少種対策、生物多様性地域戦略策定についての説明を、センター職員が行いました。また、野田市、いすみ市、銚子市から、活動報告を行っていただきました。

授業に役立つ生物多様性研修

千葉県総合教育センターは、本県における教育に関する調査研究及び研修を行うとともに、本県の教育の振興・充実を図ることを目的とする機関です。このために、様々な機関と連携して、教職員を対象とする研修を開催しています。そのひとつとして、生物多様性センターでも「授業に役立つ生物多様性研修」と題して、教職員向けの研修を行っています。平成26年度は、8月20日（水）に千葉県総合教育センターで研修を実施しました。生物多様性についての講義の後、中央博物館で使用されている児童向け野外活動メニューの体験と、土の中にくらす多様な生物の観察等の実習を行いました。



千葉県総合教育センターとの共催
「授業に役立つ生物多様性研修」

里山里海の生物多様性保全に関わる事業への参加と協力

ちばの里山里海サブグローバル生態系評価

千葉県生物多様性センターが参加・協力支援した里山里海の生物多様性保全活動は以下のとおりです。

1 里山里海再生を掲げる生物多様性地域戦略

いすみ市は平成27年2月、「生物多様性豊かな地域づくり、里山里海を守り伝える人づくり」を基本理念とする「いすみ生物多様性戦略」を策定しました。生物多様性センターでは、いすみ市の生物多様性に関する資料・情報を提供するとともにその策定委員会に職員を派遣しました。



いすみ生物多様性戦略

戦略づくりに際しては、市民等から寄せられた全ての意見を盛り込んだ項目立によって事業が策定されました。その取組には「里山里海の自然・文化の保護・保全」と「里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理」が掲げられ、各41（重点5）、48（重点6）の事業が位置づけられ、また「生物多様性いすみステーション（仮称）」の設置も掲げられました。

2 第11回里山シンポジウムへの参画

千葉県里山条例の制定を記念して毎年5月に開催される里山シンポジウムの第11回大会が「里山・裏山・命山、その恵みと創造」をメインテーマとして平成26年5月18日（日）に君津市生涯学習交流センターで開催されました。

その分科会報告の特別発表として生物多様性センターの取組を紹介し、またパネルディスカッションでは「里山の重要性と課題、そして再興への方向性」について報告し、今後の保全対策への議論に参画しました。

基調講演はアメリカ国籍で東京情報大学教授のケビン・ショート氏の「里山の魅力を伝える」であり、また分科会では4名の台湾の研究者による「台湾の里山保全活動紹介と交流」が開催されるなど国際的なシンポジウムとなり、430名以上の参加者がありました。

さらに「ちば里山宣言 in 君津」が全会一致で採択され、その中には「私たちは、人と自然が一体となった生物多様性の宝庫・里山の再生と再創造を進めます。」という宣言が盛り込まれました。



第11回里山シンポジウム
チラシ

3 台湾の山里里海の研究への貢献

台湾国立高雄師範大学地理学系副教授の劉淑恵氏をリーダーとする里山里海の研究グループに、千葉県の里山里海研究や保全活動についての情報提供をおこなってきました。その研究グループの成果が台湾で「看見・台湾里山」として出版されました。

この研究は、千葉県の里山里海サブグローバル生態系評価研究の成果である里山里海分類の9タイプに、「珊瑚礁里海」と「礫石里海」を加えた11タイプを軸として台湾の63ヶ所の里山里海の現状と課題を調査したものです。また、その研究では日本の代表的な保全活動が調査され、その一つとして、市原市の「いちほら里山クラブ」の活動が紹介されています。

Ⅲ

平成 26 年度他機関への 支援活動・研究業績等のまとめ

他機関への支援活動・研究業績等

○職員

平成26年4月～平成27年3月における常勤職員（9名）。(併)は中央博物館との併任を示す。

副技監 中村俊彦（併）
主幹 熊谷宏尚
副主幹 小野知樹
副主幹 萩野康則（併）
副主幹 御巫由紀（併）
主査 高山順子（併）
主査 村田明久（併）
主査 鈴木芳博
技師 鈴木規慈

○他機関への支援活動

・講演・講座講師・観察会講師等(46件)

- 2014.4.19 房総の地域文化を学ぶ会「設立記念講演会：房総の富士山，その自然と信仰」（木更津市中央公民館）講演・中村俊彦. 60名
- 2014.5.8 千葉自然学校「千葉シニア - 自然大学：千葉の自然概論」（千葉県立中央博物館）講演・中村俊彦. 40名
- 2014.5.14 （公社）日本環境教育フォーラム「東京シニア自然大学：千葉の里山」（千葉県立中央博物館）講演・中村俊彦. 25名
- 2014.5.18 里山シンポジウム実行委員会「千葉県生物多様性センターの事業と市民との連携」（君津市）講演・小野知樹. 300名
- 2014.5.18 里山シンポジウム in 君津実行委員会「第11回里山シンポジウム in 君津：里山・裏山・命山 その恵みと創造」（君津市生涯学習交流センター）パネルディスカッションコメンテーター・中村俊彦. 435名
- 2014.5.30 いすみ自然と共生する里づくり連絡協議会「平成26年度総会：房総半島いすみの里山里海と生物多様性」（いすみ市役所大原庁舎）アドバイザー・中村俊彦. 60名
- 2014.6.1 生物多様性いすみ戦略策定検討委員会「自然と共生するいすみ市の将来を考えるつどい・グループC：いすみ市の生物多様性と持続可能な社会と人づくりについて」（旧千町保育園）座長・中村俊彦. 34名
- 2014.6.8 東京湾学会公開シンポジウム「房総から望む富士山の自然と文化 Part2：富士山と房総の里海文化」（千葉県立中央博物館）講演・パネラー・中村俊彦. 81名
- 2014.6.16 生物多様性いすみ戦略策定検討委員会「自然と共生するいすみ市の将来を考えるつどい・グループC：豊かな教育文化」（旧千町保育園）座長・中村俊彦. 27名
- 2014.6.20 大多喜町立西小学校「大多喜町立西小学校自然観察会」（大多喜町内）観察会・小野知樹. 40名
- 2014.6.29 （公社）日本山岳会千葉支部「房総の山の魅力と富士山を語る集い：房総の里山里海と富士山」（千葉県立中央博物館）講演・パネラー・中村俊彦. 180名
- 2014.6.30 千葉県北部林業事務所「千葉県の稀少種（植物）保護と外来種について」（千葉県北部林業事務所）講演・御巫由紀. 7名
- 2014.7.5 環境アセスメント学会生態研究部会「里山生態系保全を推進する“里山バンキング”」（「わたしの田舎」谷当工房）パネラー・熊谷宏尚. 40名
- 2014.7.8 東京大学大学院自然環境学コア科目「環境政策論特別講演：生物多様性保全と生態系サービス」（東京大学柏キャンパス環境棟）講演・中村俊彦. 30名
- 2014.7.10 NPO法人千葉自然学校「千葉シニア自然大学：自然関係法制度概論」（千葉県立中央博物館）講演・熊谷宏尚. 50名
- 2014.7.10 NPO法人千葉自然学校「千葉シニア自然大学：生物多様性と生態系概論」（千葉県立中央博物館）講演・高山順子. 50名
- 2014.7.10 御宿町公民館「自然観察会」（清水川（御宿町））観察会講師・鈴木規慈. 70名
- 2014.7.17 いちはら市民大学「環境コース：自然共生社会を目指して」（サンプラザ市原）講演・中村俊彦. 30名
- 2014.7.27 木更津市「盤津干潟のいきものたち」（木更津市民会館）講演・高山順子. 60名
- 2014.7.28 千葉県千葉農業事務所「生物多様性をどのように活用していくか～生物との共存を目指して～」(千葉県千葉農業事務所) 講座講師・鈴木規慈. 40名
- 2014.8.12 北軽井沢大学村組合「大学村植物の会」（北軽井沢大学村（群馬県））観察会講師・御巫由紀. 25名

- 2014.8.15 国際鳥類学会「Mid-congress tour：我孫子市谷津ミュージアムの自然」(我孫子市谷津ミュージアム) 講演. 中村俊彦. 50名
- 2014.8.18 環境パートナーシップちば「千葉市地域環境保全自主活動：外来生物について正しく知ろう！ ―親子で学ぶ外来生物―」(花鳥コミュニティセンター) 講演. 御巫由紀. 30名
- 2014.8.20 千葉県生物多様性センター・千葉県総合教育センター「平成26年度授業に役立つ生物多様性研修」(千葉県総合教育センター) 講師等. 萩野康則・御巫由紀・村田明久. 17名
- 2014.8.28 (株)タケエイ生物多様性学習会「企業による生物多様性の保全・再生」(タケエイ本社) 講演. 中村俊彦. 35名
- 2014.8.29 茂原市生涯学習課「自然観察会」(茂原市内) 観察会講師. 鈴木規慈. 50名
- 2014.9.11 千葉県ゴルフ協会「生物多様性について」(ホテルポートプラザちば) 講演. 村田明久. 18名
- 2014.10.4 千葉自然学校「千葉三越やさしく学ぶ自然塾第4回：富士山と房総の里山里海」(千葉三越) 講演. 中村俊彦. 11名
- 2014.10.12 東京都公園協会「江戸時代のバラを探る」(清澄庭園) 講演. 御巫由紀. 60名
- 2014.10.14 いすみ市商工会「セミナー：生物多様性いすみ戦略について」(いすみ商工会大原本所) 講演. 中村俊彦. 30名
- 2014.11.10 (株)安藤・間「企業と生物多様性」(株)安藤・間 本店) 講演. 熊谷宏尚. 10名
- 2014.11.13 セイコーインスツル(株)「千葉県における生物多様性」(セイコーインスツル(株)高塚事業所) 講演. 熊谷宏尚. 35名
- 2014.11.23 神崎川を守るしろい八幡溜の会「魚類の生息状況等調査」(神崎川(白井市)) 観察会講師. 鈴木規慈. 10名
- 2014.11.28 和田未来農業研究会「第4回和田未来農業研究会公開セミナー：土の中の生きものたち - 目に見えない土壌生物のはたらき -」(佐倉市和田ふるさと館) 講師. 萩野康則. 71名
- 2014.11.29 印旛沼環境基金「平成26年度印旛沼環境基金設立30周年記念座談会：いんば沼の生きものたちのこれから」(ミレニアム佐倉) 講演. 高山順子. 50名
- 2014.12.4 千葉自然学校「第3回自然誌公開講座：自然保護・生物多様性保全の自然誌博物館論」(千葉県立中央博物館) 講演. 中村俊彦. 152名
- 2014.12.6 千葉県立中央博物館「千葉県におけるミヤコタナゴの現状と課題―淡水魚類保全の今後に向けて―」(千葉県立中央博物館) 講演. 鈴木規慈. 30名
- 2014.12.20 千葉県立東金青年の家「平成26年度千葉県立東金青年の家主催事業：お米の世界④～収穫祭～」(千葉県立中央博物館) 講演. 萩野康則. 17名
- 2015.1.14 八街市中央公民館「生きがい短期大学：第2学年第15回講座『地球の環境を見直そう』」(八街市中央公民館) 講座講師. 萩野康則. 16名
- 2015.1.16 市原市生物多様性勉強会「生物多様性とその重要性」(市原市役所) 講演. 中村俊彦. 25名
- 2015.1.23 印旛沼環境基金「平成26年度印旛沼環境基金助成事業報告会」(千葉県印旛合同庁舎) 講演. 高山順子. 50名
- 2015.2.7 千葉自然学校「千葉三越やさしく学ぶ自然塾第6回：子どもの生きる力と生物多様性」(千葉三越) 講演. 中村俊彦. 15名
- 2015.3.7 いすみ市「第3回自然と共生する里づくりシンポジウム：いすみ市の生物多様性と戦略づくり」(いすみ市岬公民館) 講演・パネラー. 中村俊彦. 200名
- 2015.3.19 鳥獣被害対策フォーラム「千葉県内における鳥獣対策の現状と課題解決に向けた取組」(市原市市民会館) 講座講師. 鈴木規慈. 100名
- 2015.3.20 千葉県山武農業事務所「イノシシの生態と山武地域における今後のイノシシ対策について」(千葉県山武農業事務所) 講座講師. 鈴木規慈. 20名
- 2015.3.22 里山シンポジウム実行委員会「2015特別企画・里山里海の保全活動と博物館：里山里海と生物多様性と博物館」(千葉県立中央博物館) 講演・パネラー. 中村俊彦. 80名

・視察受け入れ (3件)

- 2014.10.29 福岡市環境局保健環境研究所。「生物多様性センターの取組について」. 1名
- 2014.12.4 茨城県生活環境部環境政策課。「生物多様性センターの設置について」. 2名

他機関への支援活動・研究業績等

2015.2.9 愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター。「野生動植物の保全活動の取組、企業ネットワークの取組について」.1名

・研修生受け入れ(6件)

2014.8.25～8.29 インターンシップ.東京大学大学院.1名

2014.9.1～9.5 インターンシップ.東邦大学大学院.1名

2014.9.8～9.12 インターンシップ.東京情報大学.1名

2014.9.16～9.22 インターンシップ.中央大学.1名

2014.9.22～9.29 インターンシップ.東京情報大学.1名

2014.9.29～10.3 インターンシップ.東京大学大学院.1名

2014.10.25 第12回印旛沼流域環境・体験フェア(千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議) 於:佐倉ふるさと広場向かい

2014.11.3 第1回自然誌フェスタ千葉(千葉県立中央博物館) 於:千葉県立中央博物館

2014.11.3 長南フェスティバル(長南町) 於:長南町役場

2014.11.16 リサイクルフェア(富里市) 於:富里中央公園

2014.11.16 行徳やちよかん祭り(行徳野鳥観察舎友の会) 於:行徳野鳥観察舎

2014.11.25～12.1 企画展:千葉県の環境学習施設(千葉県環境生活部環境政策課・千葉県環境研究センター) 於:きぼーる

2014.12.2～26 企画展:千葉県の環境学習施設(千葉県環境生活部環境政策課・千葉県環境研究センター) 於:環境研究センター

○情報発信

・展示等による情報発信(17件)

2014.6.7 第17回船橋市環境フェア(船橋市環境フェア実行委員会) 於:船橋市中央公民館

2014.6.16～6.27 環境パネル展(船橋市環境フェア実行委員会) 於:船橋市役所1階美術コーナー

2014.6.14 いんざい環境フェスタ(印西市) 於:イオンモール千葉ニュータウン

2014.6.22 第3回袖ヶ浦市環境フェスタ(袖ヶ浦市) 於:袖ヶ浦市市民会館

2014.6.28 環境フェア(市川市) 於:県立現代産業科学館

2014.6.30 ちばし環境フェスティバル(2014ちばし環境フェスティバル実行委員会) 於:千葉市文化センターアートホール

2014.6.22 香取市環境フォーラム2014(香取市) 於:佐原中央公民館

2014.6.24～29 環境展(八千代市) 於:イオンモール緑ヶ丘

2014.7.19～9.15 野鳥展in八千代(八千代市) 於:八千代市立郷土博物館

2014.9.23 エコメッセ2014inちば(エコメッセちば実行委員会) 於:幕張メッセ国際会議場

・マスコミを通じての情報発信(40件)

2014.4.2 東葛毎日新聞社.ふれあい毎日.里山海通信82:ひよこ草のハコベ(中村俊彦)

2014.4.29 千葉日报社.千葉日報.カミツキガメ(熊谷宏尚)

2014.4.30 千葉日报社.千葉日報.ナガエツルノゲイトウ(熊谷宏尚)

2014.5.1 千葉日报社.千葉日報.キョン(熊谷宏尚)

2014.5.2 千葉日报社.千葉日報.オオキンケイギク(熊谷宏尚)

2014.5.3 千葉日报社.千葉日報.アライグマ(熊谷宏尚・鈴木規慈)

2014.5.5 千葉日报社.千葉日報.ナルトサワギク(熊谷宏尚)

2014.5.6 東葛毎日新聞社.ふれあい毎日.里山海通信83:千葉県里山の日に学ぶ「命山」(中村俊彦)

2014.5.8 朝日新聞社.朝日新聞朝刊.アダチアカサシガメ(熊谷宏尚)

2014.5.14 千葉テレビ.ニュース番組.カミツキガメ防除事業(熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.15 NHK.ニュース番組.カミツキガメ防除事業(熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.15 テレビ朝日. ニュース番組. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.15 読売新聞社. 読売新聞朝刊. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.16 TBSテレビ. Nスタ. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.16 テレビ朝日. スーパーJ. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.21 千葉テレビ. ニュース番組. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・高山順子)

2014.5.22 朝日新聞社. 朝日新聞朝刊. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚・小野知樹・高山順子)

2014.5.25 千葉日報社. 千葉日報. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.5.28 千葉日報社. 千葉日報. オオキンケイギク (熊谷宏尚)

2014.6.4 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信84:「船橋の尾瀬」の水神さまとの25年ぶりの再会 (中村俊彦)

2014.6.12 千葉日報社. 千葉日報. メリケントキンソウ (熊谷宏尚)

2014.6.20 千葉テレビ. ニュース番組. ミヤコタナゴ違法飼育 (熊谷宏尚)

2014.6.21 千葉日報社. 千葉日報. ミヤコタナゴ違法飼育 (熊谷宏尚)

2014.6.26 共同通信社. 共同通信ニュース. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.6.29 TBSテレビ. 噂の東京マガジン. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.7.2 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信85:アジサイの故郷, 房総の海辺 (中村俊彦)

2014.7.16 毎日新聞社. 毎日新聞朝刊. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.7.21~27 ケーブルネット296. ニュース番組. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.7.28 読売テレビ. 朝生ワイド す・またん! . カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2014.8.6 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信86:アゲハチョウの命 (中村俊彦)

2014.9.3 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信87:クマザサの「命山」 (中村俊彦)

2014.10.1 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信88:「里山百名山」の提案 (中村俊彦)

2014.11. 台湾經典雜誌. 經典. 里山 (中村俊彦・熊谷宏尚)

2014.11.5 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信89:「風の人, 土の人」そして「魅力と誇り」 (中村俊彦)

2014.11.8 朝日新聞社. 朝日新聞朝刊. ミヤコタナゴ保全シンポジウム (熊谷宏尚)

2014.11.8 千葉日報社. 千葉日報. ミヤコタナゴ保全シンポジウム (熊谷宏尚)

2014.12.3 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信90:イノシシ里山から里海まで (中村俊彦)

2015.1.15 読売新聞社. 読売新聞朝刊. カミツキガメ防除事業 (熊谷宏尚)

2015.2.4 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信91:「遠景」に込める「心想」 (中村俊彦)

2015.3.4 東葛毎日新聞社. ふれあい毎日. 里山海通信92:「もののけ」や「妖怪」からの学び (中村俊彦)

・作成協力等 (2件)

2015.2.25 株式会社ペリかん社「なるには Books65 地方公務員になるには. さまざまな地方公務員③環境生活部. 地域の生態系を守り, 外来生物による被害を防ぐ」. インタビュー・取材協力 (高山順子)

2015.2 株式会社フレーベル館「ふしぎびっくり写真えほん. カミツキガメはわるいやつ?」松沢陽士 (写真・文). 取材協力 (高山順子)

○研究業績等

・中村俊彦

教育普及書

中村俊彦・小西由希子. 2014. 文化サービス「こころを育む里山文化と生物多様性」. 稗田忠弘 (編), 第10回里山シンポジウム報告書. 16. 里山シンポジウム実行委員会.

中村俊彦. 2015. 「私の生物多様性」地域戦略づくりのアンケート調査より. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 42: 1-3. 千葉県自然保護課, 千葉市.

他機関への支援活動・研究業績等

委員等

千葉大学理学研究科客員准教授（景相保全生態学）
東京情報大学倫理委員会委員
東京湾学会副会長
国土交通省関東地方整備局関東エコロジカルネットワーク推進協議会委員・コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会委員
滋賀県生物多様性地域戦略策定に係わる専門家会議委員
千葉県印旛沼流域水循環健全化会議委員
ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料評価委員会委員
生物多様性いすみ戦略策定検討委員会委員長
千葉市環境審議会委員
船橋市環境審議会委員
山武市成東・東金食虫植物群落保護検討委員会委員・作業部会長
東京都港区緑と水の委員会委員
東京都港区生物多様性推進委員会副委員長
（公財）日本自然保護協会理事・参与
環境自治体会議環境政策外部評価委員

・熊谷宏尚

委員等

市川市教育委員会 市川市文化財保護審議会委員
一般財団法人自然環境研究センター（環境省） 外来種被害防止行動計画策定会議検討委員

・小野知樹

教育普及書

小野知樹. 2014. 千葉県の希少種（アズマヒキガエル）. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）40: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

・萩野康則

学術報告

萩野康則. 2015. エダヒゲムシ綱. 青木淳一（編）, 日本産土壌動物一分類のための図解検索【第二版】pp. xxiii, 917-940. 東海大学出版部, 神奈川.

教育普及書

萩野康則. 2014. ミミズの科学読み物. こどもの図書館 61 (7): 7-9. 児童図書館研究会, 東京.
萩野康則. 2014. ビオトープ実地講座を開催. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）40: 3. 千葉県自然保護課, 千葉市.
萩野康則. 2014. 連携大学の研究成果発表会を開催. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）41: 3-4. 千葉県自然保護課, 千葉市.
萩野康則. 2015. 「八幡さん=でっぴりとしたオタクっぽい人」という私の想像は全く見当違いだった. Kishidaia(106): 81-84. 東京蜘蛛談話会, 東京.
萩野康則. 2015. 千葉県の希少種. ワスレナグモ. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）42: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

研究発表

萩野康則. 2014.4. 生物多様性関連リストと蛛形類. 2014年度東京蜘蛛談話会4月例会. 東京環境工科専門学校, 東京都墨田区.

委員等

日本土壌動物学会 評議員
千葉県環境生活部自然保護課 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成委員会委員
環境省 希少野生動植物種保存推進員
栃木県環境森林部自然環境課 栃木県自然環境調査（レッドリスト）調査員

・御巫由紀

学術報告

御巫由紀. 2014. ジョゼフ・バンクス（1743-1820）の業績, Bunkamura ザ・ミュージアム（編）, 「キャプテン・クック探検航海と『バンクス花譜集』展図録のうち分担執筆. 128-129. Bunkamura ザ・ミュージアム, 東京.

教育普及書

御巫由紀. 2014. 長崎・古のバラの源流を探る旅「平戸ミステリーローズ」. マイガーデン 71:6-15. マルモ出版, 東京都.
御巫由紀. 2014. 日本の薔薇を知りたくて その1: ノイバラ *Rosa multiflora* 「ハイブリッド・マルチ

フロアの謎」. ガーデンダイアリー 1:74-75. 八月社, 東京都.

御巫由紀. 2014. 日本の薔薇を知りたくて その2: ハマナス *Rosa rugosa* 「ハマナスの香り」. ガーデンダイアリー 2:116-117. 八月社, 東京都.

御巫由紀. 2014. 書籍紹介 Old Rose Survivors - Wild and Untamed. オールドローズとつるばらのクラブ会報 164:20-21. オールドローズとつるばらのクラブ, 東京都.

御巫由紀. 2014. 世界バラ会連合第13回国際ヘリテージローズ会議ザンガーハウゼン(ドイツ). オールドローズとつるばらのクラブ会報 55:52-57. 京成バラ会.

御巫由紀. 2014. 19世紀のバラの世界「レーシッヒのバラの本」の展示に寄せて. 日本植物画倶楽部会報「くさかや」23:16-17. 日本植物画倶楽部.

研究発表

御巫由紀. 2014.10. 県民参加型生物モニタリング調査『生命(いのち)のにぎわい調査団』5年間の活動の成果. 第17回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC17). アルファあなぶきホール, 高松市.

Yuki Mikanagi. 2014.12. Natural Habitats of Wild Roses in Japan and their Conservation. 世界バラ会連合中央アジア地域大会. Hyderabad International Convention Centre, ハイデラバード(インド).

委員等

木更津市教育委員会 木更津市文化財保護審議会委員
国土交通省北陸地方整備局国営越後丘陵公園事務所
国際香りのバラ新品種コンクール審査委員会委員
千葉大学 非常勤講師

銚子市教育委員会 銚子市文化財総合調査委員
千葉県自然保護課 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会種子植物分科会委員
市川市公園緑地課 市川市緑の調査専門委員

・高山順子

学術報告

高山順子・松沢陽士. 2015. 千葉県印旛沼水域において平成26年度に確認されたカミツキガメの産卵巣、及び卵の被食. 千葉県生物多様性センター研究報告 9: 1-8. 千葉県自然保護課, 千葉市.

教育普及書

高山順子. 2014. 千葉県の外来種(ミシシippアカミミガメ). 生命のにぎわいとつながり(生物多様性ちばニュースレター) 41: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

研究発表

秋田耕佑・高橋洋生・高山順子. 2014.11. 千葉県印旛沼水系におけるカミツキガメ防除の現状と課題. 日本爬虫両棲類学会第53回大会. 神戸山手大学, 神戸市.

秋田耕佑・高橋洋生・高山順子. 2014.12. 千葉県印旛沼水系におけるカミツキガメ防除の現状と課題. 第2回淡水ガメ情報交換会. 東邦大学, 船橋市.

・村田明久

教育普及書

村田明久. 2014. 千葉県の外来種 タテジマフジツボ. 生命のにぎわいとつながり(生物多様性ちばニュースレター) 39: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

村田明久. 2014. 磯の生きものから見た千葉県の生物多様性. 生命のにぎわいとつながり(生物多様性ちばニュースレター) 40: 1-3. 千葉県自然保護課, 千葉市.

村田明久. 2014. 多様なフジツボ. 朝日新聞 チーバくんの夏休み特別編 2014.8.14 朝刊:34.

委員等

日本国際湿地保全連合 モニタリングサイト1000沿岸域調査サイト代表者

・鈴木芳博

教育普及書

鈴木芳博. 2014. 企業との連携の推進. 生命のにぎわいとつながり(生物多様性ちばニュースレター) 38: 2-3. 千葉県自然保護課, 千葉市.

他機関への支援活動・研究業績等

・鈴木規慈

学術報告

Katsutoshi Watanabe, Seiichi Mori, Tetsuo Tanaka, Naoyuki Kanagawa, Takahiko Itai, Jyun-ichi Kitamura, Noriyasu Suzuki, Koji Tominaga, Ryo Kakioka, Ryoichi Tabata, Tsukasa Abe, Yushu Tashiro, Yoshiki Hashimoto, Jun Nakajima, Norio Onikura. 2014. Genetic population structure of *Hemigrammocyppris rasborella* (Cyprinidae) inferred from mtDNA sequences. *Ichthyological Research* 61(4):352-360.

鈴木規慈・萩原妙子. 2015. 千葉県におけるニホンジカの捕獲状況および栄養状態モニタリングー2013（平成25）年度. 千葉県生物多様性センター研究報告9:9-16. 千葉県自然保護課, 千葉市.

鈴木規慈・大澤浩司・久保田尚. 2015. 千葉県におけるキョンの捕獲状況および栄養状態モニタリングー2013（平成25）年度. 千葉県生物多様性センター研究報告9:17-24. 千葉県自然保護課, 千葉市.

鈴木規慈. 2015. 千葉県におけるカワウの生息状況と今後の課題. 千葉県生物多様性センター研究報告9:25-38. 千葉県自然保護課, 千葉市.

教育普及書

鈴木規慈. 2014. 鴨川シーワールドに「生物多様性コーナー」がオープン. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(38): 1. 千葉県自然保護課, 千葉市.

鈴木規慈. 2014. 千葉県の外来種（タイリクバラタナゴ）. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）38: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

鈴木規慈. 2014. ミヤコタナゴ保全シンポジウムを開催. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）41: 1-2. 千葉県自然保護課, 千葉市.

研究発表

鈴木規慈. 2014.12. ため池における絶滅危惧種カワバタモロコの生態の解明と積極的保全. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会. 滋賀県立琵琶湖博物館, 滋賀県草津市.

鈴木規慈. 2015.1. 生息域外における絶滅危惧種ヒナモロコの定着ー「国内希少外来種」をどのように扱うか（予報）. 第10回外来魚情報交換会. 草津市立市民交流プラザ, 滋賀県草津市.

千葉県生物多様性センター 年報7

平成28年3月発行

発行 千葉県環境生活部自然保護課

編集 千葉県環境生活部自然保護課自然環境企画室
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (県立中央博物館内)

電話：043-265-3601 ファクシミリ：043-265-3615

URL <http://www.bdcchiba.jp>

印刷 株式会社 さくら印刷

